宗教新聞

発行所 宗教新聞社
東京都新宿区新宿5-13-2
〒160-0022
電話 03-3353-2940(代)
FAX 03-5363-5182
郵便振替口座 00130-9-22704
URL http://www.religion-news.net
©宗教新聞社 2022

購読料（税込）
1部 500円
半年 3,000円（〒共）
年間 6,000円（〒共）

〈社是〉
一、精神革命の旗手
一、宗教連合の具現
一、地上天国の建設

鎌倉を京に並ぶ武士の都に

まちづくりに見る頼朝の願い

鶴岡八幡宮 鎌倉国宝館 「鎌倉殿の13人 大河ドラマ館」オープン

NHKの大河ドラマ「鎌倉殿の13人」に合わせ3月1日、鎌倉市の鶴岡八幡宮にある鎌倉国宝館に「鎌倉殿の13人 大河ドラマ館」がオープン、来年1月9日まで楽しめる。鎌倉幕府が開かれた当時から今も鎌倉の中心にあるのが鶴岡八幡宮。鎌倉の街歩きは、鎌倉駅に近いここから始めるのが、歴史を一番感じやすい。

鶴岡八幡宮

永福寺跡

太平洋に面する鎌倉は三方を山に囲まれた防衛上に有利な場所で、源氏ゆかりの当地を拠点にしたのも、源頼朝の軍事感覚からだろう。平地に開かれた相模や武蔵の国の国府があった場所に比べると、はるかに守りやすい。

歴史学者の磯田道史国際日本文化研究センター教授は、NHKの歴史番組で「頼朝は鎌倉に建築物や道路を配置し、自分の政権の系図を描いた」と述べている。鶴岡八幡宮から北は頼朝と祖先たち、同宮の東隣に大倉御所（幕府）を構え、未来を象徴するのが海に向かう由比若宮（ゆいのわかみや、元鶴岡八幡宮）で、武家の棟梁の血筋であることを可視化したという。北条政子が産む嫡男が頼朝の政権を継承することを、ライバルである周りの弟たちにも見せつけたのである。

「鶴岡八幡宮から由比ヶ浜に延びる直線の参詣道の若宮大路は、政子が頼家を身ごもっているときに造られたもので、頼朝から頼家へのまっすぐな政権移譲が効果的に可視化されている」と、大河ドラマの時代考証を担当している坂下孝一創価大学教授も賛同していた。

鶴岡八幡宮は、相模守であった源頼義が奥羽（東北）での戦に勝利し京に帰る途中、1063年に鎌倉に立ち寄り、この地に源氏の守り神である石清水八幡宮の祭神を勧請したのが始まり。その五代後の源頼朝が、現在の鶴岡八幡宮がある場所に社殿を移してから、由比若宮・元八幡と呼ばれるようになった。

大河ドラマ館

大倉御所跡や頼朝の墓、鎌倉宮の先に、発掘後整備されている史跡永福寺跡があった。永福寺は鎌倉市二階堂にあった寺院で、源義経や藤原泰衡ら奥州攻めで亡くなった武将らの鎮魂のため、平泉の中尊寺二階大堂を模して頼朝が建立した。

二階堂・薬師堂・阿弥陀堂の三堂を中心とする壮大な伽藍の配置は、三堂が複廊を介して南北方向に二列に並び、両側の堂からはL字型の廊が付属し、中門・釣殿が造られていて、そのまえに壮大な庭園と池が配置されていた。連想したのは宇治の平等院だが、こうした伽藍配置と規模は頼朝の独創性を示している。

御所の東北、丑寅の方角を守るとともに、都などからの客人を接待する迎賓館としても使われ、京に匹敵する文化が鎌倉にもあることを見せたのであろう。

発掘調査では中国から輸入された青磁や白磁が多く発見されており、頼朝の目は海を介して海外にも向けられていたことが分かる。

地域歴史学の中井淳史氏は、大量に発掘されながら、人々の暮らしに近すぎて、考古学では注目されてこなかったかわらけに注目した『中世かわらけ物語』（吉川弘文館）で、鎌倉などの陶工がろくろで作り、最後に京風に仕上げていたと分析している。大量生産され、安価なため、宴会で使用された後は投げて割られており、その音で邪気を払うと思われていたという。ドラマの宴会シーンを注目したい。

大河ドラマ館では、長大なスクリーンに、山上から海を見た鎌倉の全体像が映し出されていた。頼朝の願いにもかかわらず、その血筋は三代で途絶えるが、その信仰・思想を可視化した鎌倉は、今も世界の人たちを引き付けている。

灯

「キリストは、神の身分でありながら、神と等しい者であることに固執しようとは思わず、かえって自分を無にして、僕の身分になり、人間と同じ者になられました。人間の姿で現れ、へりくだって、死に至るまで、それも十字架の死に至るまで従順でした。このため、神はキリストを高く上げ、あらゆる名にまさる名をお与えになりました。

こうして、天上のもの、地上のもの、地下のものがすべて、イエスの御名にひざまずき、すべての舌が、『イエス・キリストは主である』と公に宣べて、父である神をたたえるのです。」（フィリピの信徒への手紙2：6―11）

桜咲く春は、ユダヤ教、キリスト教、仏教など世界宗教の主要な祭りが重なる。西方キリスト教の暦では4月10日の「受難の主日」から復活祭まで「聖週間」を過ごしている。創造主なる天の父が人類救済のために地上に送られた神のひとり子を、不信仰のゆえに十字架に送ったあやまちを悔い改めて、ふさわしい心で復活祭に備える一週間。今一度、神の御業に心を向け、創造主のまなざしでこの世の出来事を見つめなおす時でもある。（I）

天地

天地子の地域では、4月は田植えの始まり。6月の酒米さぬきよいまいで終わる。去年は10日にコシヒカリを植えたが、低温のため生育が悪かったので、今年は16日開始となった。それに向けて、耕耘、堰の整備、畦塗りなどの作業を進めている▼土が軟弱でトラクターが動けなくなるような2ヘクタールほどの田んぼが長く耕作放棄になっていたので、地主に了解を得てビオトープにすることにした。水をためて、水生生物がすみ着くようにするのだが、第一の理由は水の力で雑草の繁茂を抑えること▼その下の田んぼの畔際に、ユンボで深い溝を掘って水が抜けるようにし、畦塗りをしたうえでパイプ配管のコックを開けると、8時間ほどで浅い沼のようになった。さっそくシラサギが飛んできて、水面に浮いてくる虫を探していた▼放置していると雑草が生い茂るので、これまでは年に数回草刈りをし、除草剤を散布していた。去年、おそらく保護している鳴門市から一度だけコウノトリが数羽飛来したので、いつもエサがある田んぼを用意すれば、また来るかもしれないとの期待から、ビオトープ化を決めた▼書斎の窓からその田んぼが遠望できるのだが、今朝もシラサギが数羽来ている。これで朝の楽しみが一つ増えた。水路にいたドジョウをビオトープに入れたりしていると、子供時代を思い出す。これも、失われた身体性や自然性回復の一つになるだろう。

社説

日本文化を形成した神仏習合

政治的危機の背景には経済的危機があり、その背景には文化的危機がある。常識的理解を超えたロシアのウクライナ侵攻も、プーチンと彼を支えるロシア人の文化的・宗教的特質に迫らないと理解できない。

他者理解は自己理解の合わせ鏡であり、世界をより正確に理解するには、日本への理解を深める必要がある。文化史、宗教史から見て、その中核になるのが神仏習合であろう。よって本紙では、「神仏習合の日本宗教史」の連載を始め、それにかかわる宗教・文化現象を探究していきたい。

開かれた系での習合

戦後、経済的豊かさを求め、科学を信奉する日本人の精神的荒廃を嘆いた鈴木大拙は、『妙好人』（法蔵館）で日本仏教について次のように述べている。

「インドでは、仏教は余りに抽象的思索の面に走りすぎて亡びた。幸い漢民族の間に拡がって来て、唐宋時代に禅となった。それがついには文学的表現に憂身をやつすようになった。それが却って仏教的体験の本質的なるものを失脚させた。日本に渡った仏教は、始めは抽象的領域を出なかったが、鎌倉時代になって純粋に日本的となった。インドの仏教でもなければ、中国の仏教でもない。ことにそれが浄土真宗になるに至って、日本的なるものを大いに発揮させた。…日本的になって、実に世界性をもつようになった」

同様のことを、中世史が専門の義江彰夫東大名誉教授は『神仏習合』（岩波新書）で次のように述べている。

「インドにおいて仏教と、基層信仰から普遍宗教までを集大成したヒンドゥー教との関係は、一貫して仏教がヒンドゥー教に歩み寄り、妥協する歴史であり、ついには仏教そのものがヒンドゥー教にのみ込まれてゆく…。中国において仏教が解決しなければならなかったのは、国教となった世俗宗教儒教と、その対極で人々の心をとらえた道教との関係を、それぞれ構築することであった。…仏教と儒・道を同次元で混ぜ合わせるという点で、脱世俗を核心とする仏教が少なくとも社会的には浸透しえなかった…。朝鮮では、中国以上に儒教が国教として重視されたが、三国鼎立、中国の圧迫という国際的圧力が、共同体からの個の自覚をはやめ、仏教の摂取と基層信仰の結合を促進したとみられる。が、同時に仏教と基層信仰の結合を、…仏教のもとに編成させる道を選んだ…。

とすれば、日本の神仏習合は普遍宗教と基層信仰が完全に開かれた系で繋がっているという点で、世界的にみても、独特な宗教構造をつくり出した…」

異教の神と神話を否定するキリスト教では、ゲルマン・ケルト信仰の神々はキリスト教に取り込まれ、アウグスチヌスが大成した三位一体論により、ゲルマン的神霊はキリスト教の精霊として吸収されてしまう。

アニミズム的な原始信仰の時代では、世界の各民族の宗教は共通する部分が多かったであろうが、普遍宗教との融合を経、さらに国の形成、経済的な対立を重ねるうちに、敵対的な宗教・思想に発展したのである。

養老孟司風に言えば、肥大しすぎた脳が起こすのが宗教・思想の対立であり、そうなった近現代社会を修正するには、現代人が身体性を回復する必要がある。欧米ではバイデン米大統領の発言のように、プーチンを絶対悪と見る傾向が強いが、それは一神教の特性であり、米国はロシアを滅ぼそうとしていると思い込んでいるプーチンの宗教性と同類である。

しかし、民主主義対権威主義の対立構造では、戦争は収束しない。世界的な危機に対して日本ができることは、米国よりも深刻度の高いヨーロッパ各国や、民主主義がそれほど成熟していない国々とも連携し、被害の最小化を図ることだろう。

危機の時代の先に

仏教学者で朝鮮仏教に造詣の深かった鎌田茂雄東大教授の持論は、インド・中国・朝鮮の仏教と比較研究しないと日本仏教は分からない、だった。

自然宗教的な基層信仰の上に、普遍宗教である仏教を受容し、国家形成の思想として活用しながら、様々な神仏習合の形を生み出してきた日本文化の特性を再発見することが、危機の時代を乗り越える一助となるに違いない。

未来照らす「竹あかり」

石巻市旧大川小で追悼行事

宮城県

東日本大震災の発生から11年目の3月11日、宮城県石巻市の旧大川小学校で竹燈籠にあかりをともす追悼行事「大川竹あかり」が催された。企画したのは、児童遺族らでつくる「大川竹あかり実行委員会」。

大震災では児童74人、教職員10人が津波で犠牲になり、助かったのは児童4人、教職員1人のみ。学校管理下では戦後最悪の惨事だった。今回は大川小が、昨年7月に市の震災遺構として整備されて初めて迎える節目でもある。未来を照らす光に震災の記憶と教訓を語り継ぐ決意を込めたという。

竹でできた高さ5メートルのシンボルオブジェの周りに犠牲者数と同じ84本の竹を並べ、発光ダイオード（LED）で光る竹燈籠を旧校舎の西側に設置。デザインは熊本県を拠点に全国で竹あかりの演出を行っている池田親生さんが手掛けた。竹は小学校に近い山林から遺族らが切り出したもの。燈籠製作には全国から延べ約500人が携わった。

作品は「つないでいく」がテーマ。亡き人に思いをはせる日のあかりとして、〝過去と未来や、天と地をつなぎたい〟との願いだ。全国から届いたメッセージが書かれたランプも添えられていた。

卒業生代表として挨拶に立った只野哲也さん（震災当時大川小5年生）は、「子供の命を真ん中に」を合い言葉に震災後、伝承活動に取り組む団体を立ち上げており、「子供の命を真ん中に考えることができなければ、人は必ず誤った方向へ進んでしまう。今や、日本だけでなく世界中の人が、このことに気づかなければならない時ではないか」などと語った。

午後6時前に点灯されると、訪れた人々は竹に彫られたさまざまな模様から漏れる光を見て回った。跪き祈る人の姿もあった。

「毎年、慰霊にきています。いつも3月11日は寒い。特に夕方は長くはいられないほど冷たい風が吹いているのに、今日は信じられないほどの暖かさで風もない。まさに天国の子供たちが、喜んでいるかのような気持ちになります」と地元の女性。

実行委のメンバーは「未だにいろいろ揺れる気持ちが続くが、この企画は11年経ったからこそできるもの。新しい慰霊の形として長く続けていきたい」と語った。

温かな竹あかりの光で照らされた会場

本紙定期購読のお申し込みは
■ご希望購読期間 ■氏名 ■郵便番号 ■住所
■連絡先電話番号
■メールアドレス（お持ちの場合）を明記の上、宗教新聞社宛、はがき、FAXまたはEメールで左記へお申し込みください。
〒一六〇―〇〇二二
東京都新宿区新宿5―13―2―4F
電話 03（3353）2940
FAX 03（5363）5182
e-mail:religion@sage.ocn.ne.jp
http://www.religion-news.net
※購読料 年間6000円（税、郵送料を含む）
宗教新聞社

縄文のパワーフィールドへ
神道よ！今こそ《古来の本物の道》に戻るのだ！
奈良泰秀
エハン・デラヴィ 著
本物のシャーマニズムを日本人が忘れている。神道の潜在力を思い出し、世界に伝えていこう。ケルト民族末裔の意識研究家が、神道のエッセンスを聞き出す。チャネラー、ヒーラー、コンタクティを超える、宇宙と直接つながる知恵は、ここ日本の神道にあり！
四六上製1785円(税込)
株式会社ヒカルランド
〒162-0821 東京都新宿区津久戸町3-11
電話:03-6265-0852 FAX:03-6265-0853
http://www.hikaruland.co.jp

日本宗教の闇
室生 忠著 四六判・520頁 定価：本体2,000円＋税
拉致監禁による強制棄教との戦い
信教の自由が保障された今の日本で、強制棄教を目的に拉致監禁が行われている。職業的強制改宗屋が家族を巻き込み、信者を拉致し、部屋に監禁して、脅迫的説得により棄教を迫る。特に世界平和統一家庭連合（統一教会）やエホバの証人の信者に被害者が多く、中には12年以上の監禁された人もいる。驚くべき宗教迫害のリポート。
アートヴィレッジ
受注センター
〒657-0846 神戸市灘区岩屋北町3-3-18・4F
TEL 078(882)9305 FAX 078(801)0006

日本よ、蘇れ
日本神話の知恵
ゆがんだ歴史観、家庭の崩壊、教育の危機…。いま日本は大きな危機に瀕しています。この現状を打破するカギは、実は「日本神話＝古事記・神代一」にあるのです。日本神話に満ちあふれる、愛と生命と知恵に立ち返ってこそ、日本の未来は拓けます。あなたも著者といっしょに、「神話の教え」をひもといてみませんか？
出雲井晶 著
●定価1000円（税込み）
●四六並製 232ページ
●発行・産経新聞社／発売・扶桑社
お問合せ先／扶桑社 販売企画部
〒105-8070 東京都港区海岸1-15-1
TEL03-5403-8859
購入申込み FAX:03-3578-3075

日本国始め 饒速日大神の東遷
『先代旧事本紀』の神髄を極めた著者が語る。足で調べた大和建国の謎。
（定価：本体2000円＋税）
大野七三 著
須佐之男尊の出雲国創建後、饒速日尊が32従者と25軍団を従え、九州から大和に東遷して纏向の地に大和国を建国、その時、饒速日尊が配下を募り配置した今も残るその出自と足跡を立証する。
批評社
〒113-0033 東京都文京区本郷1-28-36
鳳明ビル102A
TEL 03-3813-6344 Fax 03-3813-8990

自由社ブックレット2
理想の政教分離規定と憲法改正
四六判87頁／本体価格500円
杉原 誠四郎 著
憲法改正を見据えたとき、宗教に関する条項、規定は、真剣に考えねばならない問題である。
自由社
〒112-0005 東京都文京区水道2-6-3
Tel03-5981-9170 Fax03-5981-9171
http://www.jiyuusha.jp/

新刊！
私の生命（いのち）の復活
人生の苦しみに積極的な意味はあるのか？
『21世紀に生きる日本人のための浄土思想』の出版を記念して、平成26年3月から28年11月までの5回にわたる講演をまとめた著者渾身の生命の書。
上橋 泉 著
四六判296頁（本体1500円＋税）
日本人の宗教性（霊性）は回復するか？
株式会社 如月出版 販売部
〒152-0023 東京都目黒区八雲2-24-15
ラ リュミエール1F
TEL 03-6657-9000 Fax 03-6657-8999
http://www.kisaragibook.com

たま出版
www.tamabook.com
魔のJR中央線
自殺霊の撮影で判明したこと
齋藤 齋盛 著
十年の歳月をかけ、ついに自殺者の霊の撮影に成功。
霊能者が書いた自殺防止の書。死んでも痛みは残るもの、自殺者の言い分〝こんな苦では〟自殺をした状態で霊はさまよう、硫化水素自殺、政治家と自殺、自殺の多いJR中央線の謎を解く！
四六判158頁 定価1,365円（税込）
アシレス出版部発行
お近くの書店にない場合は下記へ 送料210円
〒229-0002 相模原市渕野辺本町2-17-14
TEL042(751)2558 FAX042(754)1818

山喜房佛書林
補陀洛信仰の研究
神野富一著 A五判 五八〇頁 本体一六、〇〇〇円
チベット・アジア各地の補陀洛信仰とその伝播ルート等の集大成
弘法大師聖句集成
福田亮成編 B六判 二九〇頁 本体五、八〇〇円
本書は大師の言葉が読者の心に直接届くよう工夫され、掲示伝道や寺報の種子に最適。
〒113-0033 東京都文京区本郷5-28-5
TEL：03-3811-5361 FAX：03-3815-5554